

生活にファインクオリティ

sala

美しく快適な暮らしのために

J-クレジット制度説明会

sala

「ボイラ燃料転換活動を通じた環境価値循環への取り組み」

2022年12月2日

サーラエナジー株式会社

BS推進部

CONFIDENTIAL

本日の講演内容

1. サーラエナジーのご紹介
2. サーラエナジー 環境に関する取り組み
3. J-クレジットサービス導入のねらい
4. サーラエナジー J-クレジットサービスについて
5. J-クレジット創出～活用を拡大する上での課題と今後の取組



「SALA」は、
Space(空間)、Art(美しさ)、Living(生活)、Amenity(快適)
の頭文字を使った造語で、「生活をより美しく快適に」というグループ共通の思いが込められています。

基本理念

美しく快適な人間空間づくりを通し、
地域社会から信頼される企業グループとして、
豊かな社会の実現をめざします。

事業統合

2019年12月～

燃料ルート別からお客さま別の事業展開へ

中部ガス

ガステックサービス

合併・社名変更

サラエナジー



サラエナジーの事業内容

都市ガス、LPガス、高圧ガス、
石油、電気供給、暮らし・ビジネス
のサービスに関する事業など。

Bto Cの営業機能を「地域販社」各社へ

サラE&L
東三河

愛知県東部地域

サラE&L
浜松

静岡県西部地域

サラE&L
名古屋

愛知県西部地域、
岐阜県、三重県

サラE&L
静岡

静岡県中部東部地域、
山梨県

グッドライフ[※]
サラ関東

関東地域

サラE&L各社の
事業内容

LPガスの販売、リフォーム工事の請負、ガス機器の販売など。

※サラE&LのEは「エナジー」を、Lは「リビング（暮らし・住まい）」と「ライフ（生活）」を表しています。

※関東地域では引き続き、グッド
ライフサラ関東株式会社が地
域に根ざした総合生活サービス
を展開します。

会社概要

設立年月日	1943年9月1日
資本金	31億6,278万9千円
代表取締役会長	神野 吾郎
代表取締役社長	鳥居 裕
主な事業内容	• 都市ガス事業 • LPガス事業 • 高圧ガス事業 • 電気供給事業 • ガスに関連する機械器具の販売 • ガスに関する工事の請負 • リフォーム工事の請負 • 暮らしのサービスに関する事業 • 石油事業 • 熱供給事業
従業員数	約500名(出向者を除く)

沿革

1909年10月	豊橋瓦斯株式会社創立
1910年 5 月	浜松瓦斯株式会社創立
1943年 9 月	豊橋瓦斯(株)と浜松瓦斯(株)が合併し、中部瓦斯株式会社を設立
1959年 7 月	中部瓦斯(株)に液化ガス部を創設
1961年10月	中部液化ガス株式会社を設立
1984年11月	中部液化ガス(株)がガステックサービス株式会社に社名変更
2019年12月	中部瓦斯(株)とガステックサービス(株)が合併し、サーラエナジー株式会社に社名変更 事業の一部をサーラE&L 東三河株式会社、サーラE&L 浜松株式会社、サーラE&L 名古屋株式会社、サーラE&L 静岡株式会社に分割

コンセプト

「そうだ！サラに聞いてみよう」

「燃料ルート別」から「お客さま別」へ、サービス提供スキーム・営業活動・組織体制を転換！

一般家庭・商業・業務用のお客さま

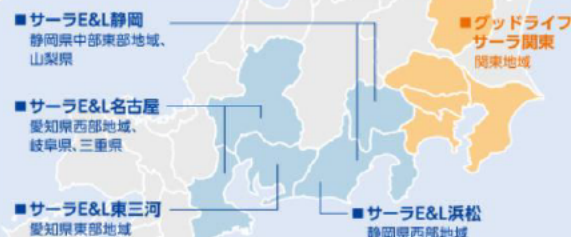
暮らしの SALA

地域のお客さまの豊かでしあわせな暮らしを実現するための、ガス・電気等のエネルギーと暮らし・住まいに関する総合生活サービスをお届けします。

暮らしの総合窓口

「サラE&L」「グッドライフサラ関東」

地域に密着した暮らしと住まいの相談場所としてのサラプラザ等店舗と、お客さま宅に素早く駆け付けられるサービススタッフが、お客さまの状況とニーズに合わせた最適なサービスを提案・提供します。



法人のお客さま

ビジネスの SALA

ガス・電気・石油等のエネルギー供給に加え、事業課題に対するソリューションサービスをご提案・ご提供します。

法人のお客さま窓口

「サラエナジー」



商業店舗



工場



病院・医療機関
介護施設

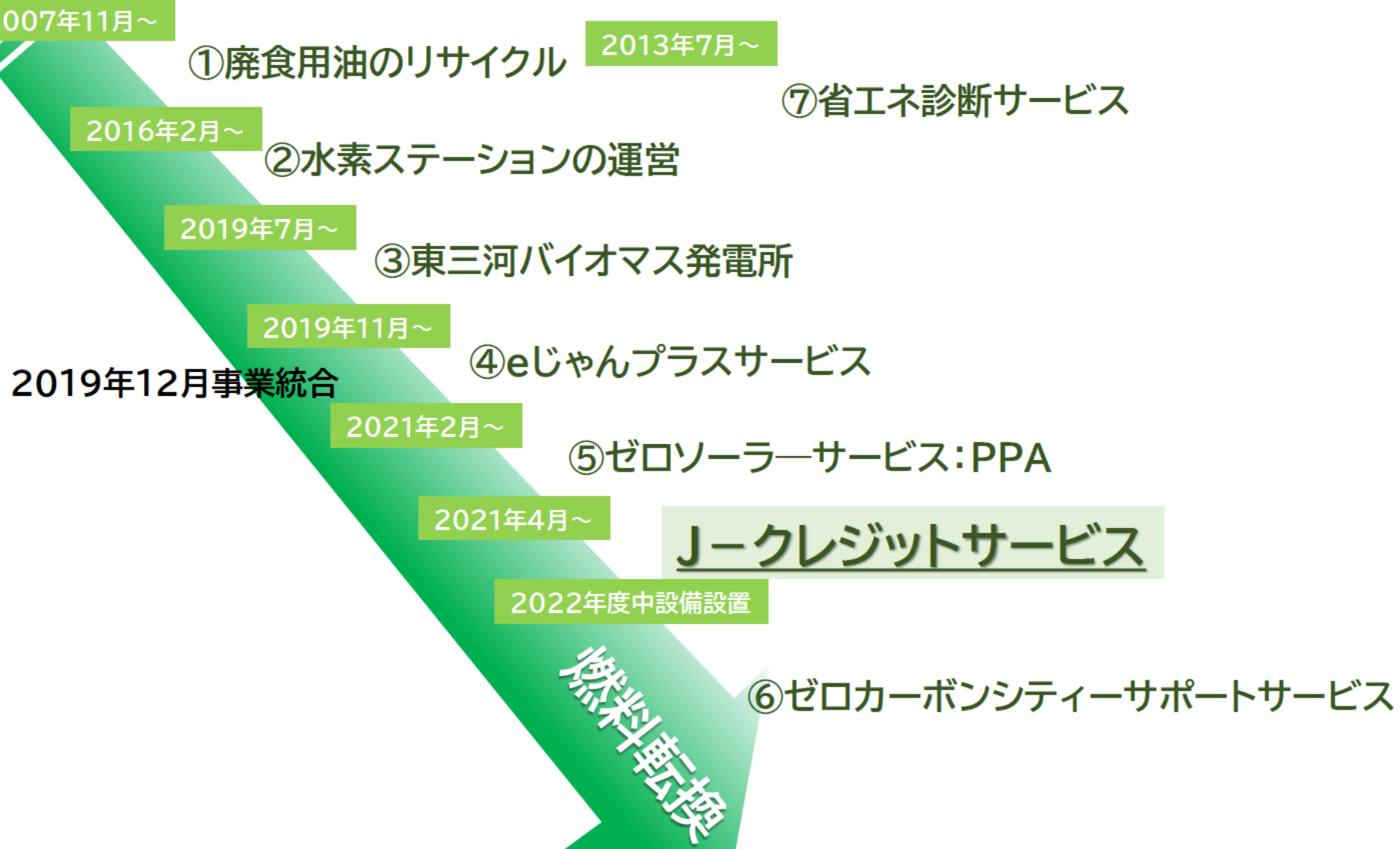
サラグループ及び地域のパートナー企業との連携

生産性向上や
労働力不足に対応する
業種ごとのサービス

お客さまの事業発展、
経営課題解決を
支援するサービス

省エネルギーに
関する包括的な
サービス

近年の主な取り組み



① 廃食用油のリサイクル

2007年11月～



調理後に廃棄される使用済みてんぷら油を
社内外より回収し、**高品質バイオディーゼル
燃料として再生**

バイオディーゼル燃料ができるまで

期限切れ・使用済み
天ぷら油などの廃食用油

廃食用油を回収

専用の装置で精製

バイオディーゼル燃料が
完成



「植物性油」を再利用



飲食店など約800カ所から
廃食用油を回収



約16時間かけて
高品質BDFを精製



回収した廃食用油の約80%が
高品質BDFに変わる

②水素ステーションの運営

2016年2月～



概要

- ・運用拠点
名称: 浜松水素ステーション
住所: 静岡県浜松市東区西塚町200番地
(当社 浜松供給センター敷地内に設置)
- 名称: 豊橋花田水素ステーション
住所: 愛知県豊橋市花田町荒木41番地1
(豊橋花田エコステーション敷地内に設置)
- ・種類 移動式
- ・水素供給方式 圧縮水素
- ・充填圧力 70MPa
- ・充填速度 3分程度/台 ※5kgの充填を想定

③東三河バイオマス発電所

2019年7月～



概要

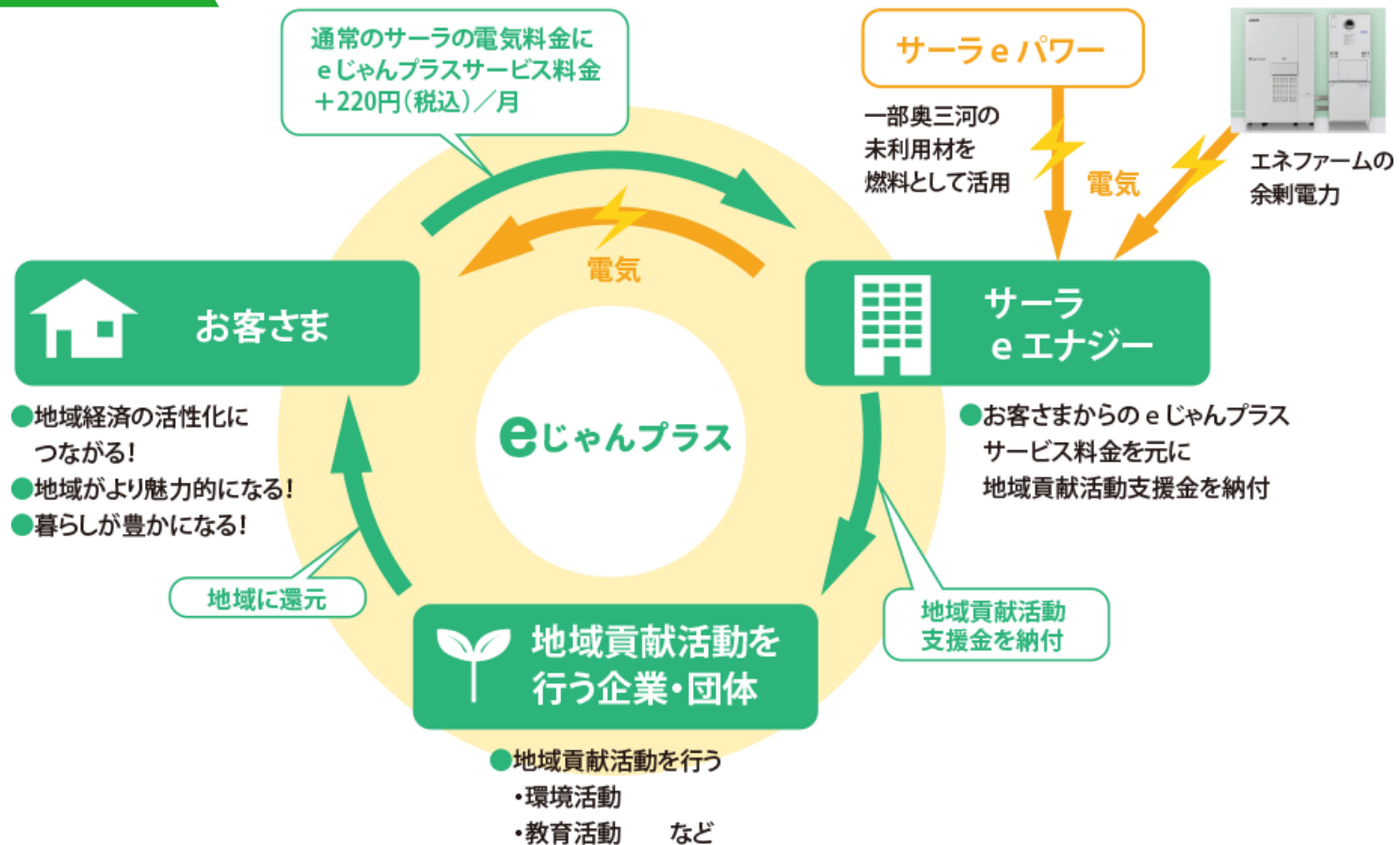
- ・運営会社: サラエパワー株式会社
(サラエナジー子会社)
- ・発電所名: 東三河バイオマス発電所
- ・建設場所: 愛知県豊橋市新西浜町2-10
- ・燃料: PKS(パーム椰子殻)(年間使用量約14万トン)(インドネシアおよびマレーシア)・木質ペレット(ベトナム・マレーシア)
および奥三河・遠州・南信州・岐阜等の間伐材等の未利用材及び一般木材(年間使用量約1万トン)
- ・売電: 中部電力株式会社または新電力

④eじゃんプラスサービス

2019年11月～

- ・ サラeパワーのバイオマス発電所で発電された電気を活用した電気料金付帯サービス
- ・ Eじゃんプラスに参加されたお客さまは電気を使いながら地域貢献活動に参加可能

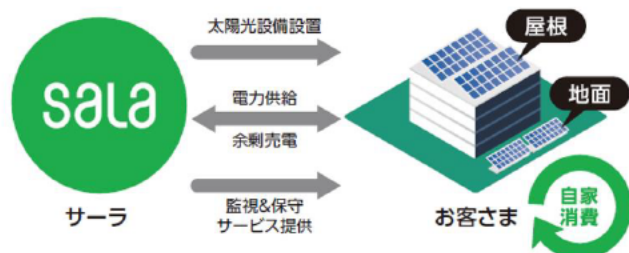
サービス概要



⑤ゼロソーラーサービス:PPA*

2021年2月～

スキーム



初期費用 0 円で導入できる
事業用自家消費型ソーラー。

* PPA(Power Purchase Agreement:
電力購入契約)
設備設置事業者(PPA 事業者)が施設に
太陽光発電設備を設置し、施設側は設備で
発電した電気を購入する契約のこと。

導入事例

太陽光発電システム第三者所有(オンサイトPPA)モデル導入事例のご紹介

【導入効果】

3か所年間約 567 千 kWh(277t-CO₂)相当の省CO₂を見込む

太陽光発電電力を自家消費することにより、商用系統からの購入電力量を削減できるため、お客様のエネルギーコストとCO₂の削減が期待されます。また、停電時にも日照があれば発電可能なため、お客様のBCP対策にも寄与することが可能です。



社 名	株式会社アルペン
発電容量	95.5kW
事業開始	2021年8月1日
設置場所	スポーツデポ・ゴルフ5 千葉ニュータウン店(千葉県印西市)



社 名	本多プラス株式会社
発電容量	210.4 kW
事業開始	2021年3月1日
設置場所	大宮工場(愛知県新城市)



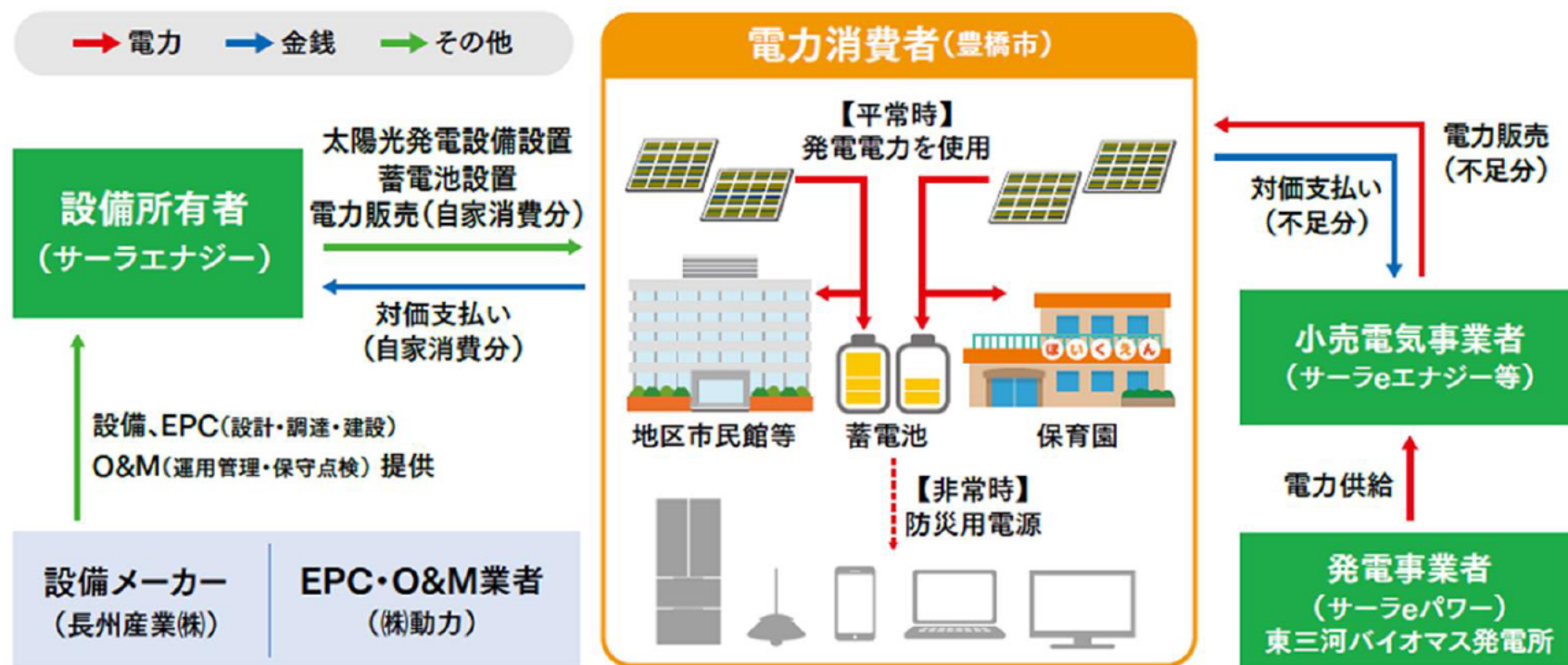
社 名	株式会社丸上製作所
発電容量	247.5 kW
事業開始	2021年2月12日
設置場所	板ばね工場(愛知県豊川市)

⑥ゼロカーボンシティサポートサービス

2022年度中設備設置

豊橋市市有施設への再生可能エネルギー等導入事業の協定を締結
～サラの総合力で「ゼロカーボンシティとよはし」の実現をサポート～

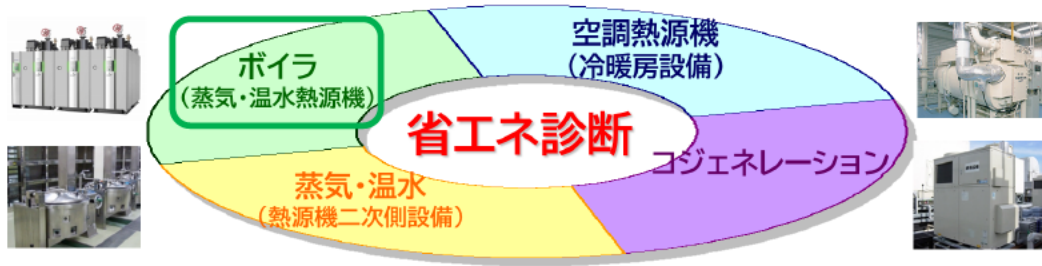
事業スキーム



施設全体で約 4 割の二酸化炭素排出量削減の見込み

⑦省エネ診断サービス 2013年7月～ >>> カーボンニュートラル最適診断サービスへ

主な対象設備



課題解決内容

エネルギーの最適利用促進

省エネ	省CO2	省コスト
BCP・レジリエンス	使い勝手・不具合の改善	ファイナンス

診断フロー

年間10～20案件実施

エネルギー使用の現状把握（データ収集・分析）



損失要因の解消・メリットの最大化



提案

設備

既存設備の効率の把握

更新後設備の効率の想定

燃料転換や更新による
省CO2効果・ランニングコスト
の提示

消費

電気や熱の
利用方法の把握

ムダな使い方がある場合は
改善の検討

課題解決方法と
効果・コストの提示

システムの把握

負荷の把握

運転効率の把握
(排ガス分析)

放熱ロスの確認

附帯機器の作動点検

導入の狙い

1. 【お客さまへの環境価値の見える化】

→燃転によって創出される環境価値をJ-クレジット化により見える(カーボンプライス)化

2. 【ボイラ燃料転換の促進】

→燃転によって創出される環境価値をJ-クレジット化、その売却益としてお客さまへ還元することにより燃転によるランニングコスト低減、業務用需要(特にボイラ)の都市ガス、LPガスへの燃料転換を促進

3. 【エネルギーの差別化】

→当社が供給するエネルギーを創出したJ-クレジットにより二酸化炭素排出量を相殺することにより環境価値を付加したエネルギーとして提供可能

4. 【環境貢献企業としてのPR効果】

→J-クレジット制度ホームページへの当社プロジェクト SDGs・地球温暖化対策への積極的な取り組みに対するPR効果

5. 【社員の環境意識やモチベーション向上】

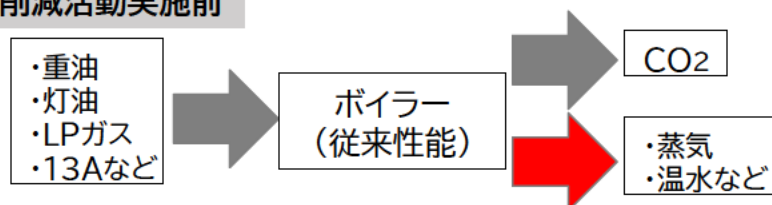
→燃転活動によるCO₂削減量がJ-クレジットとして見える化されることにより営業担当者および活動に関わる社内スタッフの環境意識やモチベーションの向上も期待

概要

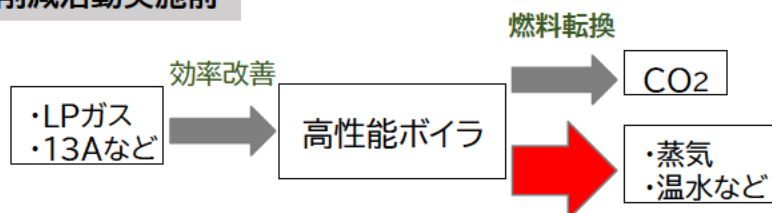
プロジェクトの名称	高性能ボイラー導入によるCO2削減事業
運営管理者	サーラエナジー株式会社
方法論	ボイラーの導入
登録形態	プログラム型

概念図

削減活動実施前



削減活動実施前



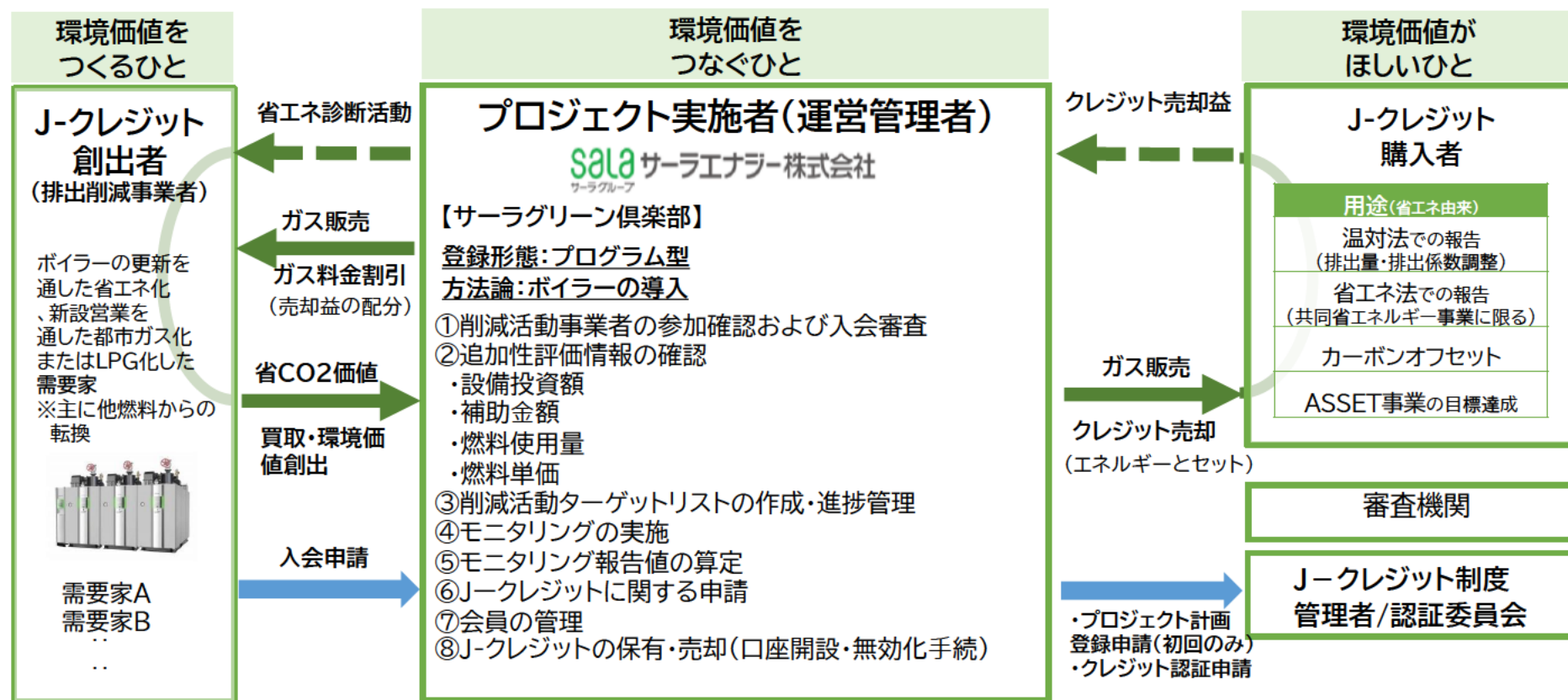
排出削減計画

ベースライン 排出量の総量	プロジェクト実施後 排出量の総量	排出削減量 の総量
205,768	148,359	57,404

* 計画登録申請時2030年までの排出量(t-CO₂)

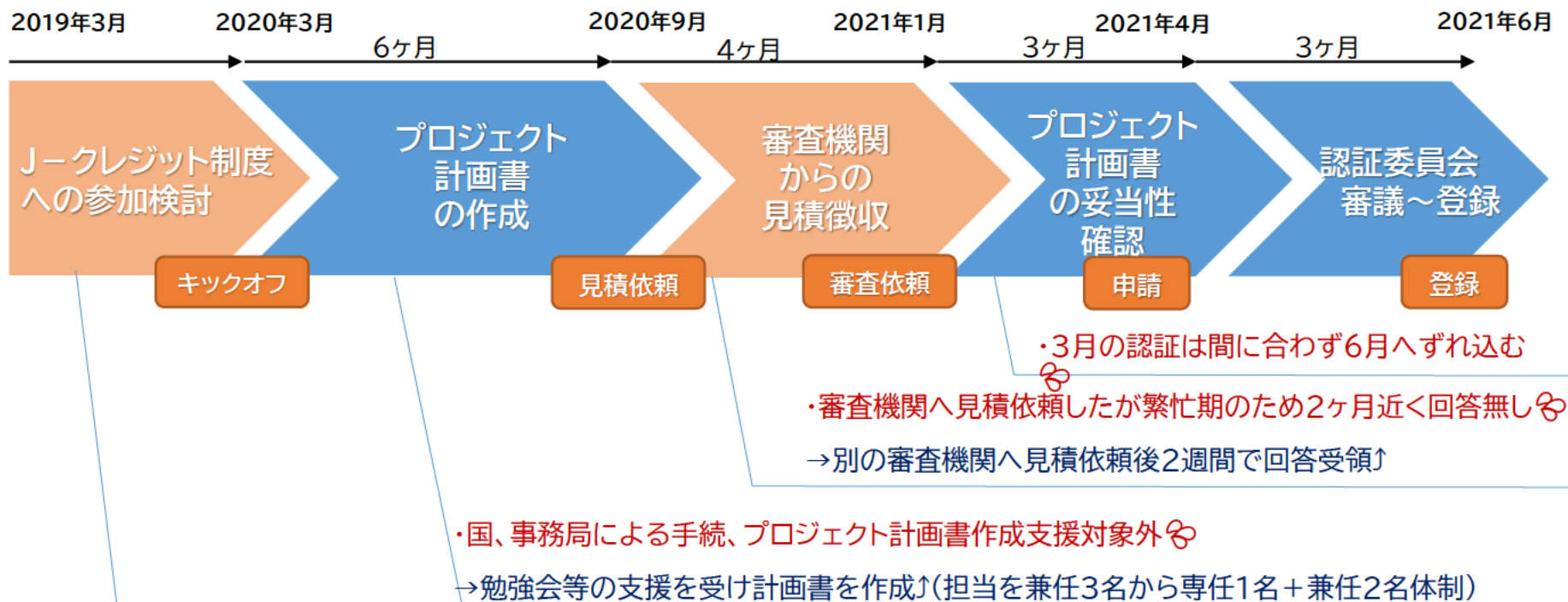
環境価値創出～循環プロジェクト全体概念図

- 主に油焚きボイラ燃料転換により得られる省CO₂分を本プロジェクトにてJ-クレジット化。
- 創出したJ-クレジットをガスとセットで販売、販売益をJ-クレジット創出プロジェクト運営費や省エネ活動の一部へ充てることで当社ガスエリア内で環境価値の循環を目指す。



J-クレジットサービス化の振り返りと課題

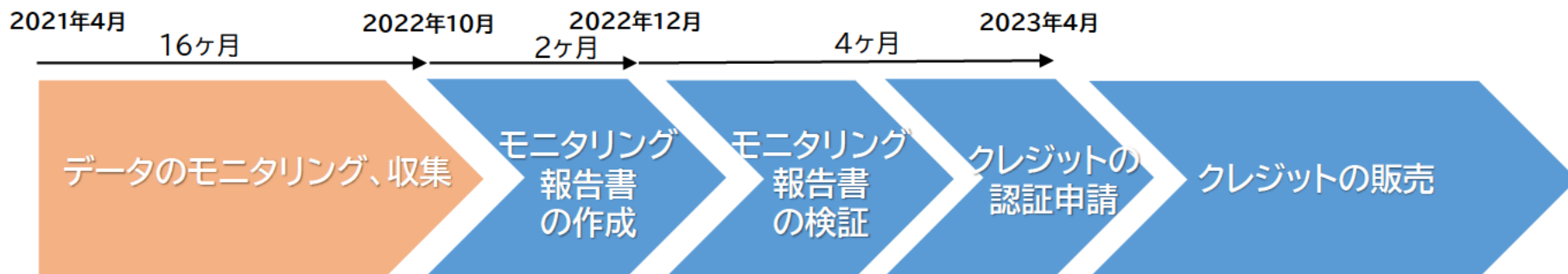
①プロジェクト登録までの流れ



- 2019年1月の省エネ由来クレジット平均落札額が1,500円/t-CO₂を超えた為プロジェクト運営可能と判断、環境価値ニーズが高まったのではないかとプロジェクト登録準備しよう！
- 温対法特定事業者ではないボイラー燃料転換案件の省CO₂価値を生かしたい！
 - ・省エネ : クレジット追加案件発生！…環境省補助金採択のため対象外
 - ・再エネ : 卒FIT太陽光発電の自家消費分をクレジットしたい！…対象外(2019年3月検討時)
 - ・森林吸収: 森林保全活動「サラの森」プロジェクトをクレジット化したい！…面積不足のため対象外

J-クレジットサービス化の振り返りと課題

②プロジェクト登録までの流れ

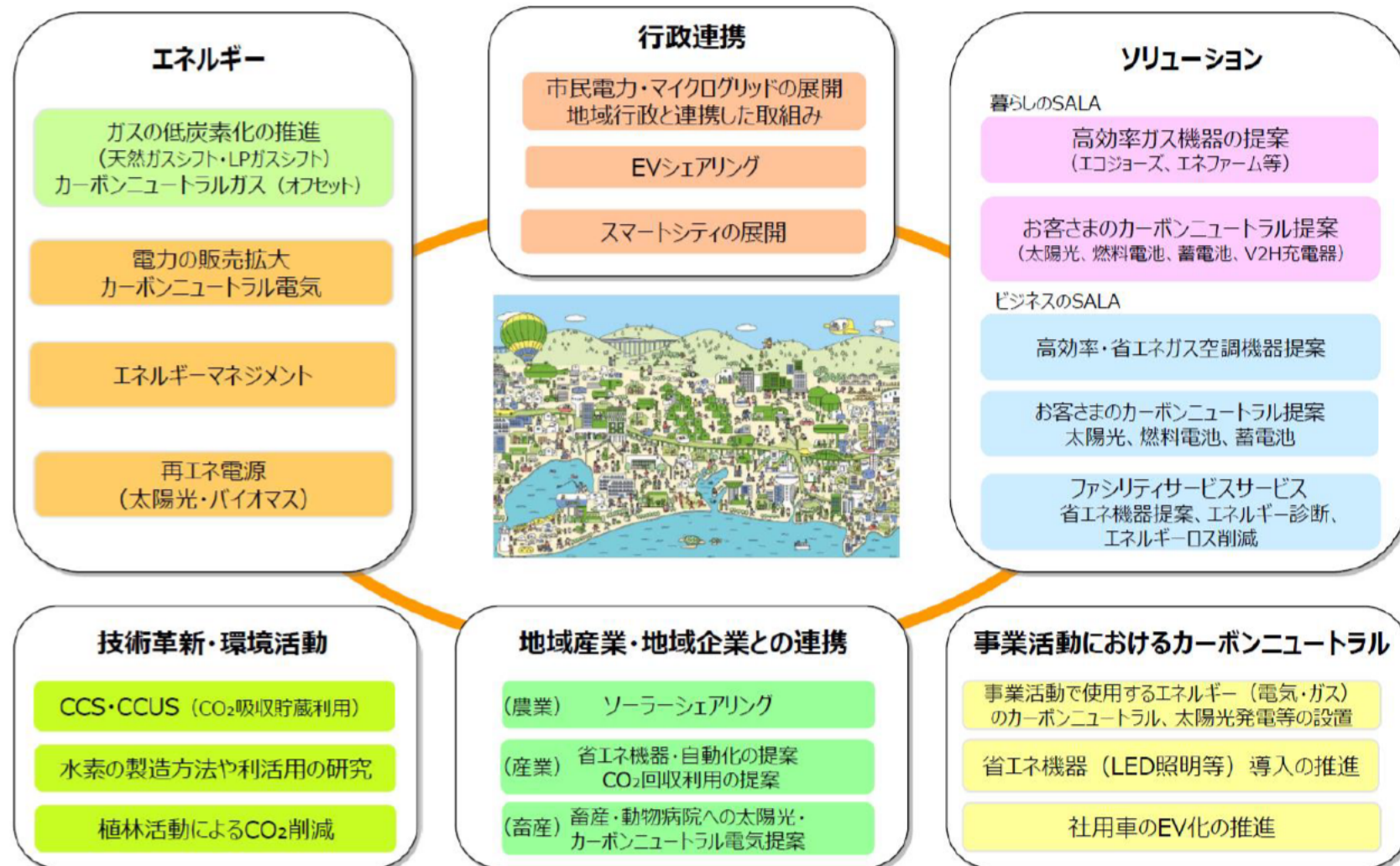


- 新たな会員を集め、J-クレジットの創出数量を増やしたい！
- 温対法特定事業者様が新設案件にてクレジット付都市ガス供給を希望

- ・CN宣言: J-クレジット創出を予定していた燃転済みのお客さまが急遽入会お断りのご連絡を頂く
理由としてはCN宣言後今後炭素税導入等法改正の可能性もゼロではないため、省CO2価値を持っておきたい
 - ・天然ガスの高騰: 燃料転換計画の延期・電化
 - ・上記+油激変緩和: モニタリング中のお客さまは燃転した都市ガスボイラの他にA重油ボイラを保有していたため
都市ガスボイラの稼働率が下がりモニタリング量激減
- 都市ガスについても来年より激減緩和の対象となり、次年度以降の燃転やモニタリング対象ボイラ稼働増に期待

今後の取組

サラグループ「カーボンニュートラル推進」に向けた展開イメージ



ご清聴ありがとうございました！



美しく快適な暮らしのために